

文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究(シ01)

目的 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。併せて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

成果 1. 調査研究成果の公開と、研究情報の国際発信

- ・令和元年度に引き続き、当研究所刊行の論文等を国立情報学研究所が運営する学術機関リポジトリデータベース(IRDB)を通じて公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』『在外日本古美術品保存修復協力事業報告書』など118件を今年度新たに追加し、合計13タイトル3,749件の論文・刊行物のフルテキストを搭載・公開した。
- ・アメリカ・ゲッティ研究所との共同研究を推進し、国際連携による共同研究事業を効果的に進めていくための協議を行った。ゲッティ研究所との共同研究を推進し、国際連携による共同研究事業を効果的に進めていくための協議を行った。
- ・展覧会カタログ所載記事・論文のデータを「東京文化財研究所美術文献目録」として、世界最大の共同書誌目録データベースであるOCLCのセントラル・インデックスに情報を提供し、今年度は2017(平成29)年の文献情報4,440件を追加した。

2. 国内外の関連機関との共同研究・協議

- ・京都府所蔵昭和初期文化財調書の20,000点のデジタル画像のうち約11,100件のメタデータを追加したほか、調査撮影フィルムのデジタル化を進め、データベース構築を行い、公開活用のための協議を行った。
- ・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録に関する運用面での協議をオンラインで行った。
- ・資料の特性により様々な形態・プラットフォームでオープンアクセス資料を増やしてインターネット上で広く国内外に提供するとともに、成果発表を行った。



オンライン開催のアートドキュメンテーション学会での発表

発表・橘川英規、田村彩子、阿部朋絵、江村知子、山梨絵美子：「葛飾北斎絵入り版本群・織田一磨文庫のオープンアクセス事業—ゲッティ研究所との協同による書誌情報国際発信の実践（古典籍書誌整備と資料保全）」、アート・ドキュメンテーション学会第13回秋季研究集会（オンライン開催） 20.11.28

研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治、阿部朋絵、田村彩子（以上、文化財情報資料部）、久保田裕道（無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務）、早川典子（保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務）、西和彦（文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務）、永崎研宣（客員研究員）

日本東洋美術史の資料学的研究(シ02)

目的 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

- 成果**
1. 美術史研究のためのコンテンツ(年紀資料集成)を作成するため1999(平成11)年以降の展覧会図録及び、美術・博物館所蔵品目録から年紀のある作品の資料を順次収集し、データベースソフトウェアFileMakerを使用して入力を行い、新たに311件を追加した。
 2. 本プロジェクトにかかる研究会を外部の研究者を交え、行った。
 3. 2018(平成30)年7月30日開催の、「ワット・ラーチャプラディットの日本製漆扉部材と伏せ彩色螺鈿に関する研究会」での発表をもとに各発表者が書き下ろした報告を主体とした、タイ・バンコク都所在の王室第一級寺院ワット・ラーチャプラディットの日本製漆扉部材に関する報告書の刊行を行った。



年紀資料集成

論文・安永拓世：「展覧会評「紀伊田辺の画家 真砂幽泉」展を観て一地域に還元される展覧会のあり方」『美術研究』432 pp.57-69 20.12.21

発表・小野真由美：「江戸初期狩野派史料の研究—探幽縮図を中心に—」令和2年度第2回文化財情報資料部研究会 20.7.28

・安永拓世：「片野四郎旧蔵「羅漢図」の近代における一理解」令和2年度第8回文化財情報資料部研究会 21.2.25

・米沢玲：「片野四郎旧蔵の羅漢図について—図様と表現の考察—」令和2年度第8回文化財情報資料部研究会 21.2.25

刊行物・『タイ所在日本製漆工品に関する調査研究—ワット・ラーチャプラディットの漆扉』21.3

研究組織 ○小林達朗、小野真由美、塩谷純、二神葉子、城野誠治、小林公治、江村知子、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、(以上、文化財情報資料部)、早川泰弘(保存科学研究センター)、津田徹英(客員研究員)

近・現代美術に関する調査研究と資料集成(シ03)

- 目的** 近・現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向づけに大きく関わった欧米等の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。
- 成果**
- 仙台城址の「伊達政宗騎馬像」で知られる彫刻家小室達の作品・資料調査に基づき、『美術研究』431号にその研究成果を論説として掲載した。
 - 屋外彫刻の保存状況をめぐり、部内研究会にて討議を行った(12月21日)。
 - 現代美術資料センターとの協力体制を刷新・発展させ、全国的な美術コレクター・ギャラリー組織との連携による現代美術資料収集の枠組み構築について協議を行い(9月9日)、試験的に関連コミュニティに当研究所での資料収集事業に関する告知を実施した。
 - 美術評論家の故鷹見明彦が撮影した画廊の展示風景写真の整理を進めた。
 - 今中期計画で継続的に遂行した日本の近現代作家情報の整備(『日本美術年鑑』『物故者記事』『名簿』所収、4,835名)が完了した(成果の一部をゲッティ研究所に提供、オンライン美術家人名事典ULANで公開予定)。
 - アメリカの西洋古典絵画コレクション形成に寄与した画商ジョセフ・デュヴィーンと美術史家矢代幸雄との往復書簡(ゲッティ研究所蔵)について、部内研究会で口頭発表した(8月25日)。
 - 久米美術館との共同研究として、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳を進めウェブ上で公開、また黒田清輝・久米桂一郎間で交わされた書簡の概要を『美術研究』433号に研究資料として掲載した。



8月25日開催文化財情報資料部研究会の様子

- 論文**・野城今日子：「小室達《伊達政宗騎馬像》の制作とその社会的背景をめぐって」『美術研究』431 pp.1-24 20.8
- ・塩谷純・伊藤史湖・田中潤・齋藤達也：「書簡にみる黒田清輝・久米桂一郎の交流(一)」『美術研究』433 pp.25-66 21.3
- 発表**・山梨絵美子：「ゲッティ研究所が所蔵する矢代幸雄と画商ジョセフ・デュヴィーンの往復書簡」令和2年度第3回文化財情報資料部研究会 20.8.25

- 研究組織** ○塩谷純、橘川英規、城野誠治、野城今日子(以上、文化財情報資料部)、山梨絵美子(副所長)、三上豊、丸川雄三、田中淳、齋藤達也、田所泰、田中潤(以上、客員研究員)

美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開(シ04)

目的 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのように関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多視点的に分析し、その関係の解明を目指すものである。こうした研究の実施により、美術「作品」に対するより深い理解の醸成が期待されるであろう。

成果 ○螺鈿及び漆器類に関わる調査研究等

- ・2020(令和2)年9月9日に個人蔵伏彩色螺鈿箱について保存科学研究センターほか調査担当者で研究協議を行った。10月29日に東京国立博物館にて中国螺鈿漆器の調査を東博研究員の立会いで行った。2021(令和3)年3月15日に都内にて個人所蔵螺鈿漆器ほかの調査を行った。

○研究成果公開

- ・10月10日より12月13日まで大分県立埋蔵文化財センターにて開催された、令和2年度企画展「BVNGO NAMBAN—宗麟の愛した南蛮文化—」において、出品・図録作成に協力したほか、10月10日にはオープニング記念講演会において「キリスト教の布教と南蛮漆器—理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から—」と題し、この展覧会の展示内容と相関する講演を行った。また、この講演内容についてまとめた資料集が同センターから発刊された。

11月24日開催の第5回文化財情報資料部研究会において武田恵理氏が「初期洋風画と幕末洋風画、形を変えた継承—日本における油彩技術の変遷と歴史的評価の検証—」と題し発表を行った。

○研究データの整備と公開

- ・1965(昭和40)年の発行で230号までの掲載であった『美術研究総目録』を補完し、431号までの内容を一覧にした『美術研究』PDF版総目次を11月に当研究所総合検索及び刊行物リポジトリ上において日本語版・英語版を同時にインターネット公開し、利用者の便宜促進を図った。また、検索用キーワードの抽出作業を実施し、今後整備のうえ公開し、文献検索と発見便宜性をより向上させる計画である。

報告・小林公治：「キリスト教の布教と南蛮漆器—理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から—」『BVNGO NAMBAN—宗麟の愛した南蛮文化—』オープニング記念講演会資料集 pp.1-14 20.10

発表・小林公治「キリスト教の布教と南蛮漆器—理化学的分析の検討、メダイ研究との対比から—」(『BVNGO NAMBAN—宗麟の愛した南蛮文化—』企画展オープニング記念講演会 20.10.10

- ・武田恵理：「初期洋風画と幕末洋風画、形を変えた継承—日本における油彩技術の変遷と歴史的評価の検証—」文化財情報資料部研究会 20.11.24

研究組織 ○小林公治、小林達朗、二神葉子、塩谷純、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、野城今日子(以上、文化財情報資料部)、早川泰弘、倉島玲央(以上、保存科学研究センター)、中野照男、田所泰(以上、客員研究員)、



大分市能楽堂にて開催された講演の様子

無形文化財の保存・継承に関する調査研究(Δ01)

目的 我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

- 成果**
1. 無形文化財に関する調査研究
 - ア) 芸能分野：古典芸能（歌舞伎・文楽・三味線音楽ほか）に関する調査研究・日本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術の調査研究
 - イ) 工芸分野：伊勢型紙の製作技術に関する調査（伊勢型紙技術保存会）
 2. 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
 - ア) 諸芸：講談及び落語（正本芝居噺）の実演記録を作成（新型コロナウイルス禍により延期）
 - イ) 平家：復元曲の実演記録を作成（新型コロナウイルス感染拡大により延期）
 - ウ) 宮園節：伝承曲の実演記録を作成（宮園千碌氏ほかによる古典曲2曲）
 - エ) 常磐津節：伝承曲の実演記録を作成（常磐津兼太夫氏、常磐津文字兵衛氏ほかによる古典曲1曲）
 - オ) 踊り地（常磐津節）の実演記録を作成（常磐津兼太夫氏、常磐津文字兵衛氏、堅田喜代氏ほかによる復元曲2曲）
 3. 研究調査に基づく成果の公表
 - ア) 第14回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座「日本の伝統的な管楽器と竹材」（東京文化財研究所、2021（令和3）年3月20日収録、4月末記録映像配信、6月末報告書刊行・ウェブ公開予定）
 - イ) 無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス」（東京文化財研究所、2020（令和2）年9月25日）



第14回公開学術講座収録の様子



フォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス」の様子

- 論文**・前原恵美：「常磐津節《子宝三番叟》の音楽分析」『桐朋学園大学研究紀要』2020年第46集 pp.1-17 20.10
- 報告**・前原恵美：「伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響—調査研究とその課題—」『無形文化遺産研究報告』15 pp.5-11
- ・前原恵美・橋本かおる：「楽器を中心とした文化財保存技術の調査報告4」『無形文化遺産報告』15 pp.77-87
- 刊行物**・パンフレット2冊「日本の芸能を支える技」(VI三味線、VII箏) VI 20.12、VII 21.3
- ・無形文化財の保存・継承に関する調査研究プロジェクト報告書「伝統芸能における新型コロナウイルス禍の影響」をめぐる課題 21.3
- ・無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム1「伝統芸能と新型コロナウイルス」報告書
- ・『及川尊雄収集 紙媒体資料目録』 21.3

研究組織 ○前原恵美、久保田裕道、石村智、佐野真規(以上、無形文化遺産部)、早川典子(保存科学研究センター)、飯島満(特任研究員)、橋本かおる(客員研究員)

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究(Δ02)

目 的 風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで収集・保管してきた無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行う。また選定保存技術については、国により選定された技術及び未選定の技術について情報を収集し、その中で重要なものについては現地調査・記録作成を行う。

- 成 果**
1. 新型コロナウイルス感染拡大防止のため現地調査を控え、感染症が無形民俗文化財に与える影響について情報を収集するとともに、これまでの調査・記録の整理を進め、映像編集、展示、出版等による研究成果の社会還元を実施した。継続的研究として風俗慣習分野では正月儀礼等について、民俗芸能分野ではシシ系芸能や風流系芸能等について、民俗技術分野として和船製作技術や箕の製作技術等について、伝承や保護の実態についての情報収集を行っている。
 2. 災害被災地における民俗芸能、風俗慣習の調査として、宮城県女川町北浦地区、福島県浪江町荊宿地区の調査を継続し、女川町北浦地区の民俗誌を作成した。また無形文化遺産総合データベース・アーカイブスの構築とデータ収集を行った。
 3. 第15回無形民俗文化財研究協議会「新型コロナウイルス禍における無形民俗文化財」を事前録画・映像配信(2020(令和2)年12月25日～2021(令和3)年1月31日公開)において開催した。8件の事例報告及び5名の登壇者による総合討議を行った。成果は『第15回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめた。また汐留メディアタワーにおいて展示「箕のかたち—自然と生きる日本のわざ」を開催し、ウェブサイト「箕のかたち 資料集成」を公開した。
 4. 選定保存技術については、未選定ではあるが、絹の染織品を制作するのに欠かすことのできない文化財保存技術である絹織製作技術について調査研究を進め、報告書を刊行した。また同じく未選定ではあるが、金工品の制作に欠かすことのできない文化財保存技術である金属煮色着色の技術について、富山県高岡市と東京都台東区で現地調査を行った。



コロナ禍で映像配信を行った東京讃岐獅子舞

- 論 文**・久保田裕道：「民俗芸能を記録する—映像記録の可能性—」『継承される地域文化』臨川書店 pp.157-179 21.3
 ・久保田裕道：「コロナ禍における無形の民俗文化財の現状と課題」『無形文化遺産研究報告』15 pp.11-24 21.3
- 報 告**・久保田裕道：「湯立獅子舞の芸能」『湯立獅子舞(湯立神楽)の民俗芸能的特色』『箱根の湯立獅子舞調査報告書』箱根町教育委員会 pp.172-201、294-311 21.3
- 発 表**・今石みぎわ：「民俗事例にみる模型—小正月のツクリモノを中心に」科研費基盤B「模する技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究」第一回研究会 リモート開催 20.9.5
 ・今石みぎわ：「民俗技術における素材と加工技術—箕を中心に」令和2年度第4回総合研究会 東京文化財研究所 21.1.12
- 刊行物**・東京文化財研究所編『第15回無形民俗文化財研究協議会』 21.3
 ・東京文化財研究所編『おながわ北浦民俗誌』 21.3
 ・東京文化財研究所編『無形文化遺産(工芸技術)の伝承に関する研究報告書 絹織製作技術』 21.3

研究組織 ○久保田裕道、石村智、今石みぎわ(以上、無形文化遺産部)